

百点満点大作戦

学力づくりの運動をクラスから

学力研 先生のための学校 校長 久保 齋

宿題を科学する

私が「社会科満点大作戦」とか「理科満点大作戦」とかの原稿を書き出したのは、平成八年一月一日発行の別冊教育技術『家庭学習指導のコツ』でした。今から二〇年前ということになります。二つ目の成逸小学校で三十歳の頃の実践が中心になっています。それ以来、私はクラスを持ったたびに「宿題でしかけ、宿題を通して独り勉強、独り学習の習慣をつくる」をめざして、宿題を科学し続けて来たのです。その一つの産物として「〇〇満点大作戦」があるのです。

子どもたちの願いとは何でしょうか。はつきり言うとは、「勉強ができて、親にほめられること」です。一〇〇パーセントまちがいありません。親の願いは「子どもが自主的に勉強に取り組んでくれて、成果をあげ

てくれること」です。子どもが自主的に勉強に取り組む、成果をあげる。親はそれを見、そこはかたくない喜びを感じ、子どもをほめる。子どもは喜び、再び勉強に取り組む。

このような家庭での学習のサイクル、らせん状に深化、発展していくサイクルに最初の一打を与え、独り学習の力をつけるまでに高め導くことは、教師の大きな責務だと思えます。

この思想が、私が宿題を科学しようと考へた原点であるのです。だから、宿題で苦悩するとか、宿題のおかげで子どもが親に叱られるなどということが起こるならば宿題はださないう方がいいのです。宿題は子どもたちにとつても、その家庭においても快適な情動を醸すものでないという意味がないのです。

親と子を巻き込んだ運動を

「〇〇満点大作戦」といっても満点が取ればそれでいいのではなりません。それを通して、独り学習の習慣をつけることが大切です。そのためには教師が主導し、親子を巻き込んだ学習運動にする必要があるのです。

例えば「理科と社会は百点をとろう」という目標をつくり、テストの日を一週間前に示し、教科書丸写しという方法で、クラスみんなで取り組みます。そして、結果を報告するのです。こうすることによって、子共たちは一週間という少し遠い見通しをもって、独り学習に取り組んでいきます。

次の作文は、「社会科丸写し満点運動」とやっていたときの子どもたちの作文です。

社会テスト

武田 隆之助

テストの日、朝からテストの事ばかり考えていた。そして、学校へ行っても、テストの事ばかり考えていた。テストをくばらる前、簡単だったらしいのと思っていた。くばらばって、先生が「よいい、はじ

め。」といわはった時、いっせいにはじめた。やっていたら、わりかし簡単だったので、「やった！ 百点とれるかもしれない。」と言っただけだ。

やっただけから、だいぶ時間があつたから、十回ほど見なおした。ちようど、最後の問題は、下の本のP15の上の図にのつてたやつだった。そこも目をおしてよかつたと思つた。先生が採点しやはる時、ぼくは「百点とれますように。」と何度もいひつた。そして、ぼくの採点しやはつた。ぼくは四人目の百点だった。

その日だけは帰るのが楽しみだった。そして「青空」(学級通信)をもらった。百点が十四人と書いてあつた。そして、ぼくは「その中に、ぼくも入つてんにやな。」と思つた。家に帰つて、友だちの家に学芸会の劇の練習に行つて帰つて漢字を覚えて夕方になつた。お母さんが帰つてきはつた。ぼくはテストと「青空」を見た。お母さんは「よかつたなあ。」と言つた。くれはつた。その日のお母さんはきげんがよかつた。丸写ししてよかつたと思つた。

社会テスト

豊島 博子

私は「社会の教科書を丸写ししなさい。」と言われた時、ああどうしよう。わすれたらテストは0点やし、どうしようとばかり思ひました。家に帰つてずーつとして、そろばんに行つて、ばんごはんもすぐ食べてまたしていたら、お母さんが「そんな長いことしてて、見てたらかわいそうやわ。」と言わはつた時、私はむかつかましました。「いくらなんでも、勉強ぎらいといつてたつて、私がする時はちゃんとするのにな。」と思ひました。夜ねる時、お父さんが、「やつと、ちゃんと勉強する時がきたな。今までずーと遊んでたからな。」とわらいながら言わはりました。私はその時はなんだか。「先がおもいやられるな。これからどうなるのかな。」と寝ていても思つていて、ちよつと落ち着きがなかつたと思ひます。

自分でも、こんなにがんばつたのははじめてです。宿題がおわつた夜なんて最高でした。わくわくしてまたねられませんでした。テストの結果はもう少しの所で百点とれ

なかつたけど、がんばつたからいいと思ひます。今度はがんばりたいと思ひます。

学力での分断に抗し学力での団結を

この二人がこんなにがんばれたのは、クラスあげての学習運動を組織したからです。個別の取り組みでは子どもは力を発揮できないのです。みんなで頑張る学習運動が必要なのです。

今ではこれに、理科・社会の問題づくりを加えています。教科書を読み、教科書にそつて自分のノートに問題を作つていくのですが、これができたら大人なみの学習方法が完成したことになります。頓珍漢な問題づくりもありますが、宿題でやつてきた問題を班やお隣さんで交流していくと、随分問題づくりが上手になり、問題を出し合ひ、ともに満点をめざして取り組むと、満点が八割くらいになつていきます。

「〇〇満点大作戦」は全員百点をめざすクラスづくりの運動です。学力での分断ではなく学力での団結をめざす庶民の教師による庶民のための教育運動なのです。